

推薦人に聞いてみよう!

昨年の大賞作品『南極点のぴあぴあ動画』の推薦文を紹介します。

それ一つ一つは小さな点であっても

獨協大学文芸部

未来予想というのは当人たちがどれだけ真剣でも、後世の人が振り返って見るとなんと荒唐無稽かと笑ってしまうものが多々ある。車は空を飛び、宇宙開拓がスタートし、ロボットは知性を持つ。二十一世紀に生きるぼくたちは「そんなにうまく行くわけないだろ」と呆れながらも、十年先百年先を想像せずにはいられない。それが薔薇色の未来でも世界の終わりでも、世界が途方もない規模で変わることだけは間違いがないからだ。

「南極点のピアピア動画」は、ほんの少し先の未来、けれど限りなく今に近い世界を描いたSF作品だ。月にごく小さな彗星が衝突し、世界的な天文現象が発生して研究者は研究が破算になるなど局所的に大打撃を与えてはいるものの、ほとんどの人間はこれといって差し障りもなく当たり前日々を生活している。

キーワードは「ピアピア動画」と「小隅レイ」。日本のネットカルチャーに少しでも触れている人がこの小説の題名と表紙を一目見れば、本作が動画共有サイト「ニコニコ動画」とボーカロイドソフト「初音ミク」をモチーフとしていると分かるはずだ。最近では初音ミクの音声や楽曲はテレビCMなんかにも使われていて、パソコンに疎いぼくたちのお母さんが「よく知らないけど聞いたことはある」と言ってもおかしくないくらい爆発的に広まった。

作者自身ニコニコ動画では有名な投稿者「尻P」であり、「ピアピア動画」と「小隅レイ」の描写は真に迫っている。ぼくたちネット世代の大学生は親近感を覚えることだろう。かつて確かにあったふるきよき昭和への憧憬より近未来SFの方がリアルな肌触りがあるのがぼくたちだ。

けれどニコニコユーザー「尻P」は正真正銘のSF作家「野尻抱介」でもある。本作は厳然とした宇宙SFであり、特に宇宙開発関連のテクニカルタームはこれでもかと展開される。SFにあまり触れない人だとこの辺りはしんどくなるかも知れないが、より身近なネット界隈の描写を織り交ぜることで、それがSF初心者への一種の緩衝材として機能しているのがまたにくい。

本作は連作短編形式であり、「ピアピア動画」という環境と「小隅レイ」というツール、彗星の衝突後という

状況を基軸に登場人物たちが思い思いの夢を実現に移していく。その場のノリが、あれよあれよという間に形になっていくのは、お祭り騒ぎを見るように楽しい。この文化祭めいたユーザー生成コンテンツの思想は、決して排他的なものではない。

作中の彼らは幸運だったし、確固たる技術とユニークなアイデアを持っていたからこそ実現に移せた。けれど場所と道具は誰にでも公平に与えられているのだ。

本書が「ニコニコ動画」賛歌ではないのもまた良い。本書の解説はニコニコ動画の『えらい人』川上量生氏が担当しており、「ピアピア動画」にこめられた「ニコニコ動画」への不満と皮肉を見逃すことなく拾い上げ、運営側の一人として真っ向から反論するという、小説とその解説としてはいささか奇妙な構図が展開されている。だが両者が放つ批判精神は進歩の原動力だ。大いに楽しむことと大いに批判することは両立する。よりよいものを作る、それが本書の原動力と言えるのだ。その意味で「南極点のピアピア動画」は一つの完成されたエンターテインメントであるけれど、同時に青写真であり里程標であり現状報告である。

動画サイトから、コンビニから、飲み屋の席からはじまったアイデア。それらはフィクションではあっても、ある種の説得力を持ったフィクションだ。今こうしている間にも夢物語が実現に向かっていくかのような感覚。若いぼくたちはきっと騙されてみるのがいいのだ。お祭りを遠巻きに眺めるのは踊り疲れてからでも遅くはない。



獨協大学文芸部の
齋藤史弥さん(2013年の公開討論会にて)

かなり
参考になるわ!

大学読書人大賞だよ!

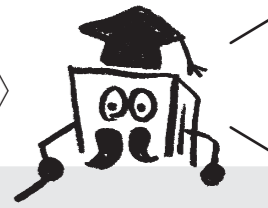
リーどみー

Read me

候補作決定号

第10号

2013年12月15日
発行：大学読書人大賞実行委員会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-12-3 JPIC内
E-mail: dokushojin@jpic.or.jp
http://www.jpic.or.jp/dokushojin/

「推薦文の締切は
2月1日じゃ。」

全国の大学文芸サークルが、大学生に最も読んでほしい本を選ぶ「大学読書人大賞」。7回目となる今年は、全国の223大学、325の文芸サークルに呼びかけて、最近1年間に初版が発行された本の中から「大学生に読んでほしい本」を3冊、順位をつけて投票してもらいました。全国25の文芸サークルから投票があり、その中から得点上位20作品を、「2014大学読書人大賞」1次候補作品に決定いたしました。候補作品は裏面をご覧ください。

2014
大学読書人大賞
20候補作品
発表!!



ここから二次投票に向けての推薦文を募集いたします! 文芸サークルの皆さまには、改めて1次候補作品をお読みいただき、サークルごとに「大学生にぜひ読んでほしい」と思う作品を最大5作品まで選んで推薦文をお書きいただきます。推薦文は800～1600字でお書きいただき、大学読書人大賞ホームページ(<http://www.jpic.or.jp/dokushojin/>)にある「推薦文応募フォーム」を使ってお送りください。お送りいただいた推薦文は全てホームページ上で公開させていただきます。なお、昨年度の最優秀推薦文を4面に掲載いたしましたので、そちらもご覧ください。

今年も昨年同様、個々の推薦文への投票によって最終候補作が決まります。皆さまの本に対する想いを反映しやすい、量よりも質を重視した選定方法となっております。どうぞふるってご応募ください。

推薦文の送付には、1次投票に参加されなかったサークルも参加できます!

推薦文締切:2014年2月1日

〈その後の選考方法〉

- お送りいただいた全ての推薦文をWeb上で公開し、1サークルにつき5本、優れていると思った推薦文に投票していただきます。自サークルの推薦文への投票は無効となります。この推薦文への投票からの参加も可能です。
→投票締切:3月1日
- より多くの票を集めた推薦文の上位5本を最優秀推薦文として、またその推薦作品を最終候補作品としてノミネートします。
- 最優秀推薦文を執筆したサークルの代表者5人によって公開討論会を行います(4月中旬、東京予定)。討論参加者5人がつけた5作品の順位によって「大学読書人大賞」1作品を決定します。
- 大賞受賞作家を招いて贈賞式を行います(6月)
→最優秀推薦文に選ばれたサークルには、贈賞式の席上、図書カードを贈呈します(大賞作品に5万円、その他4作品に3万円)。
→公開討論会と贈賞式にご参加いただくため、討論会参加サークルには1名分の交通費と宿泊費を支給いたします。

「大学読書人大賞」の
1年

一次投票

この1年間に発行された本の中から「大学生に最も読んでほしい本」を、最大3作品まで投票

二次投票

候補作品の中から、最大5作品までを選んで、推薦文を執筆・送付

三次投票

公開された推薦文を読み、優れた推薦文5本に投票、最終候補5作品決定

公開討論会

最優秀推薦文執筆サークルの代表者5名による討論会、大学読書人大賞1作品決定

贈賞式

大賞受賞作家を招いて交流会



興味のある本が
たくさんあるわ!!
ないしよだけどもね。
だってへらへら…

決定「2014大学読書人大賞」候補20作品 (作品名五十音順、定価はすべて税込)



「ホン」
全部読むのだ。
気合いだ!



『アニバーサリー』

窪美澄
新潮社 1,575円
2013年3月刊

戦後を生き抜いたマタニティ・スイミング講師の晶子と、家族愛から遠ざかり望まぬ子を宿した真菜。二人の半生と心の交流を描いた、東日本大震災後の世界に贈る物語。



『動きすぎてはいけない ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』

千葉雅也
河出書房新社 2,625円 2013年10月刊

ドゥルーズの哲学はマスメディア、SNSの広まりによって「接続過剰」となった現代と引き合わされ、「切断の哲学」へ。その出会いと融合の感動が味わえる、読み応え抜群の書。



『折れた竜骨 上・下』

米澤穂信
創元推理文庫 各651円
2013年7月刊

12世紀のイギリス、魔法の存在する世界。ソロン諸島領主の娘アミーナは、ある晩父が何者かに殺されているのを知る。魔法の絡んだ密室殺人の犯人は？魔法と推理が融合する！



『華竜の宮 上・下』

上田夕里
ハヤカワ文庫JA 各777円
2012年11月刊

時は25世紀、大規模な地球環境の変化により陸と海に分かれて暮らす人類に再び危機が迫る。思惑渦巻く中、人類は手を取って生き抜くことができるのか？話題のSF長編！

『昨日まで不思議の校舎』

似鳥 鶏
創元推理文庫 714円
2013年4月刊

コミカルな学園ミステリ・シリーズ第5弾！ミステリーの複雑さ、スピード感はシリーズの中で一番力が入ってます！七不思議に興味がある方は是非、読んでみてください！



『クオントム・ファミリーズ』

東浩紀
河出文庫 798円
2013年2月刊

2035年＝未来の娘から届いたメールがすべての始まりだった。批評家・東浩紀の小説第1作にして第23回三島由紀夫賞受賞作が十分に文庫化。筒井康隆による解説も見所。



『言語都市』

チャイナ・ミエヴィル
早川書房 2,100円
2013年2月刊

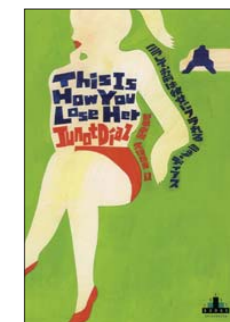
人間と、二つの口で特殊な言語を使う先住種族とが共存する惑星アリエカ。両種族間の平穏な関係が新任大使の言葉によって崩れ始める。イギリス人作家によるSF作品。



『こうしてお前は彼女にフラれる』

ジュノ・ディアス
新潮社 1,995円
2013年8月刊

どうしていつもうまくいかないのか。著者の前作にも登場した浮気をやめられないモテ男ユニオールを主人公に、彼と女性たちの関係を描く、ピュリッツァー賞作家による短編集。



『金米糖の降るところ』

江國香織
小学館文庫 700円
2013年10月刊

達哉と幸せな結婚生活を営んでいた佐和子は、突然離婚届を残して故郷ブエノスアイレスへと旅立つ。佐和子、ミカエラ、アジェレンの三人の女性の視点から描かれる恋愛小説。



『小説乃湯 お風呂小説アンソロジー』

有栖川有栖・編
角川文庫 620円
2013年3月刊

あんな作家からこんな作家まで、ジャンル・時代お構いなしに集められた風呂・風呂・風呂ばかりの傑作短篇集。ページを開けば極楽気分!?是非一度ご入浴ください。



『絶望』

ウラジーミル・ナボコフ
光文社古典新訳文庫 1,092円
2013年10月刊

芸術的な「完全犯罪」を企てた主人公が自らの天才性を証明しようと「執筆」したという、巧みで仕掛けに満ちた構造に引き込まれる。「言葉の魔術師」ナボコフ初期の傑作。



『鳥葬 まだ人間じゃない』

江波光則
ガガガ文庫(小学館) 620円
2013年5月刊

かつて犯した「殺人」の過去を交換した八尋が死んだ。主人公・陵司に「過去に殺される」とのメールを残して。事件の記憶を核に、少年少女の心の内を描く群像劇。

『遠野物語 remix』

京極夏彦／柳田國男
角川学芸出版 1,470円
2013年4月刊

日本民俗学の創始者・柳田國男の「遠野物語」を、読みやすく、分かりやすく、そして面白く。“怪異”作家と謳われる京極夏彦の手で、新たな「遠野物語」が紡がれる。



『何者』

朝井リョウ
新潮社 1,575円
2012年11月刊

自分を生き抜くために必要なことは何なのか？この世界を組み変える力はどこから生まれて来るのか？影を宿しながら光に向かって進む就活大学生の自意識をあぶりだす！



『know』

野崎まど
ハヤカワ文庫JA 756円
2013年7月刊

超情報化社会。人造の脳葉<電子葉>の移植が義務化された2081年の日本・京都。情報庁・官僚の御野・連レルが出会う少女、道終・知ル。彼女はすべてを知っていた。



『丕緒の鳥 十二国記』

小野不由美
新潮文庫 620円
2013年7月刊

十二国記シリーズ最新作。慶国に新王が登極した。即位の礼で行われる大射とは、鳥に見立てた陶製の的を射る儀式。陶工である丕緒は国の理想を表す任の重さに苦慮していた。



『富士学校まめたん研究分室』

芝村裕吏
ハヤカワ文庫JA 756円
2013年10月刊

合理的なアラサー工学系技官の藤崎綾乃は、理不尽な職場への復讐をするためロボット戦車の研究に没頭するが…。国防、恋愛にきな臭い極東情勢も絡んだ近未来SF。



『ペンギン・ハイウェイ』

森見登美彦
角川文庫 660円
2012年11月刊

郊外の街に突如現れたペンギンたちと、歯科医院の不思議なお姉さんにまつわる謎。「それが君の答えか、少年？」小学4年生のぼくが研究の果てにたどりついたものとは……。



『マリアビートル』

伊坂幸太郎
角川文庫 780円
2013年9月刊

殺し屋たちが入り乱れる様はまさに異常！いくつもの伏線を覚悟しながらも、このしてやられた感がなんともいえない！読んでいくにつれ気持ちがどんどん高まる作品です！



『ヨハネスブルグの天使たち』

宮内悠介
早川書房 1,575円
2013年5月刊

嫌にリアルな未来が舞台。人が生き滅びる。人種、宗教、意思、愛……そこにあるのは苦しい程ありのままのそれだ。今、見つめたい物語。冷たく降り注ぐ5編が語る世界とは？